

# 今を在る者が愛弟子冬木の芽

藤田湘子

「今を在る者が愛弟子」とは心に残るひびきである。今ここに居てよかったと胸をなでおろした後、しかし、軽く棘のようなものも残る。

どんな組織にも離合集散はつきもので、人の入れ替わりのない組織は進展もないであろう。「鷹」を去った後、結社を主宰し活躍している人は多いが、「師系藤田湘子」と明記する人とそうでない人があり、微妙なところである。

「来る者拒まず去る者追わず」と言っていた湘子であった。幾多の出会いと別れを経てきたことだろう。「冬木の芽」に万感こもる感があつて、厳しさと表裏一体の深い愛情を感じる。

2002年（H14）第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京